

学校出前講座

～おかやま子どもみらい塾～

岡山県文化連盟の構成員(正会員)

現在、様々な分野や地域で活動している芸術文化関係団体など117団体で構成されています。
(R7.1.31現在)

分野別県レベル文化団体 (25)

岡山県書道連盟/公益社団法人日本工芸会中国支部/岡山県合唱連盟/岡山県少年少女合唱連盟/岡山県吹奏楽連盟/
岡山県マーチングバンド協会/岡山県バトン協会/岡山県オーケストラ連盟/岡山三曲協会/岡山県バレエ連盟/岡山県現
代舞踊連盟/公益社団法人日本舞踊協会岡山県支部/財団公認岡山県吟剣詩舞道総連盟/岡山県和太鼓連盟/岡山県詩
人協会/岡山県歌人会/岡山県俳人協会/岡山県川柳協会/岡山県華道連盟/日本将棋連盟岡山県支部連合会/岡山
県アマチュア囲碁連盟/岡山県茶道連盟/岡山県民謡民舞連盟/岡山県大正琴協会/岡山県かるた協会

市町村文化連盟・文化協会 (25)

西大寺文化連盟/倉敷市文化連盟/津山市文化連盟/玉野市文化協会/笠岡市文化連盟/井原市文化協会/総社市文化
協会/高梁市文化連盟/新見市文化連盟/備前市文化協会/瀬戸内市文化協会/あかいわ文化協会/赤磐市熊山文化
協会/真庭市文化連盟/美作市文化連盟/浅口市文化連盟/里庄町文化協会/矢掛町文化協会/鏡野町文化協会/勝央
町文化協会/奈義町文化協会/西粟倉村文化協会/久米南町文化協会/美咲町文化連合会/吉備中央町文化協会

文化振興団体等 (39)

公益財団法人大原芸術財団/公益財団法人倉敷民芸館/一般財団法人林原美術館/公益財団法人岡山県郷土文化財団
/公益財団法人岡山文化芸術創造/公益財団法人総社市文化振興財団/公益財団法人吉備路文学館/公益財団法人美作
学術文化振興財団/公益財団法人福武教育文化振興財団/公益財団法人新見美術振興財団/公益財団法人タカヤ文化財
団/公益財団法人倉敷市文化振興財団/公益財団法人津山文化振興財団/公益財団法人両備文化振興財団/公益財団
法人ワコースポーツ・文化振興財団/公益財団法人成羽町美術振興財団/公益財団法人マルセンスポーツ・文化振興財
団/公益財団法人笠岡市文化・スポーツ振興財団/公益財団法人真庭エスパス文化振興財団/一般財団法人備前市文化
芸術振興財団/公益財団法人瀬戸内市歴史まちづくり財団
岡山県陶芸同好会/岡山県エッセイストクラブ/岡山県演奏家協会/岡山トロンボーン協会/中国二期会/岡山県刻字協
会/岡山県ダンススポーツ連盟/全日本ピアノ指導者協会岡山支部/岡山交響楽団/公益財団法人日本太鼓財団岡山県支
部/一般社団法人みるを楽しむ!アートナビ岡山/備前陶心会/一般社団法人健康マージャン岡山/せとうみ臨床美術の会/
NPO 法人みんなの劇場・おかやま/岡山県連句協会/社会福祉法人旭川荘/社会福祉法人なかよし会 なかよし保育園

県・市町村 (28)

岡山県/岡山市/倉敷市/津山市/玉野市/笠岡市/井原市/総社市/高梁市/新見市/備前市/瀬戸内市/赤磐市/
真庭市/美作市/浅口市/和気町/早島町/里庄町/矢掛町/新庄村/鏡野町/勝央町/奈義町/西粟倉村/久米南町/
美咲町/吉備中央町

あなたも文化のサポーターに!

公益社団法人岡山県文化連盟は、県内の多彩な文化団体を「まとめ」「つなぎ」「のばす」唯一のネットワークとして、県内各地で展開される、
分野や世代を超えた活発な芸術活動を様々な形で支援しています。さらに、会員と協力して小中学生に本物の文化体験を提供する学校
出前講座を開催するなど、次代を担う子どもたちを心豊かに育てる文化芸術活動を展開しています。

賛助会員 募集

入会申込書を郵送、ファックス、メールいずれかの方法でお送りいただき、賛助会
費を下記口座へ振り込むか、事務所へご持参ください。
※賛助会費は、税制の優遇措置が受けられます。詳しくは、岡山県文化連盟のホームページをご覧ください。

【年会費】

個人—————1 □ 3,000 円～
団体・法人—————1 □ 10,000 円～

※規模や目的などに応じて複数回数のご支援がいただければ幸いです。

【振込先】

●中国銀行県庁支店 普通預金 1398537
公益社団法人岡山県文化連盟 会長 若林昭吾
(コウエキシャダンホウジンオカヤマケンブンカレンメイ) カイチョウ ワカバヤシショウゴ

●ゆうちょ銀行 01320-7-87480
公益社団法人岡山県文化連盟
(コウエキシャダンホウジンオカヤマケンブンカレンメイ)

公益社団法人岡山県文化連盟

〒700-0814 岡山市北区天神町 8-54 岡山県天神山文化プラザ 3 階
TEL : 086-234-2626 FAX : 086-234-8300
E-mail : bunkaren@o-bunren.jp URL : https://o-bunren.jp

令和7年度
文化人材バンク

学校出前講座

～おかやま子どもみらい塾～

利用校募集!!

申請書提出期限

令和7年5月13日(火)

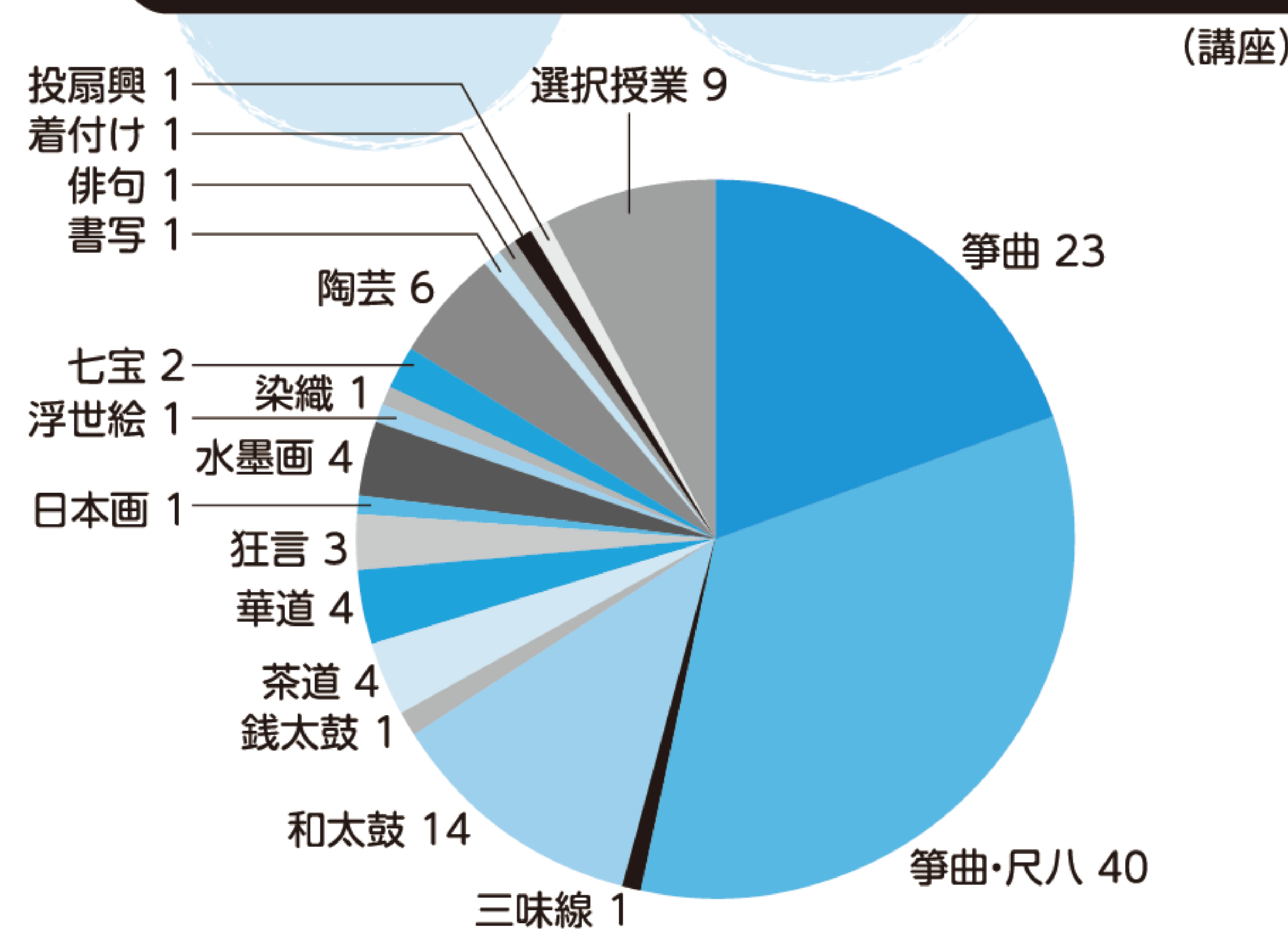
必着

主催:岡山県
(公社)岡山県文化連盟

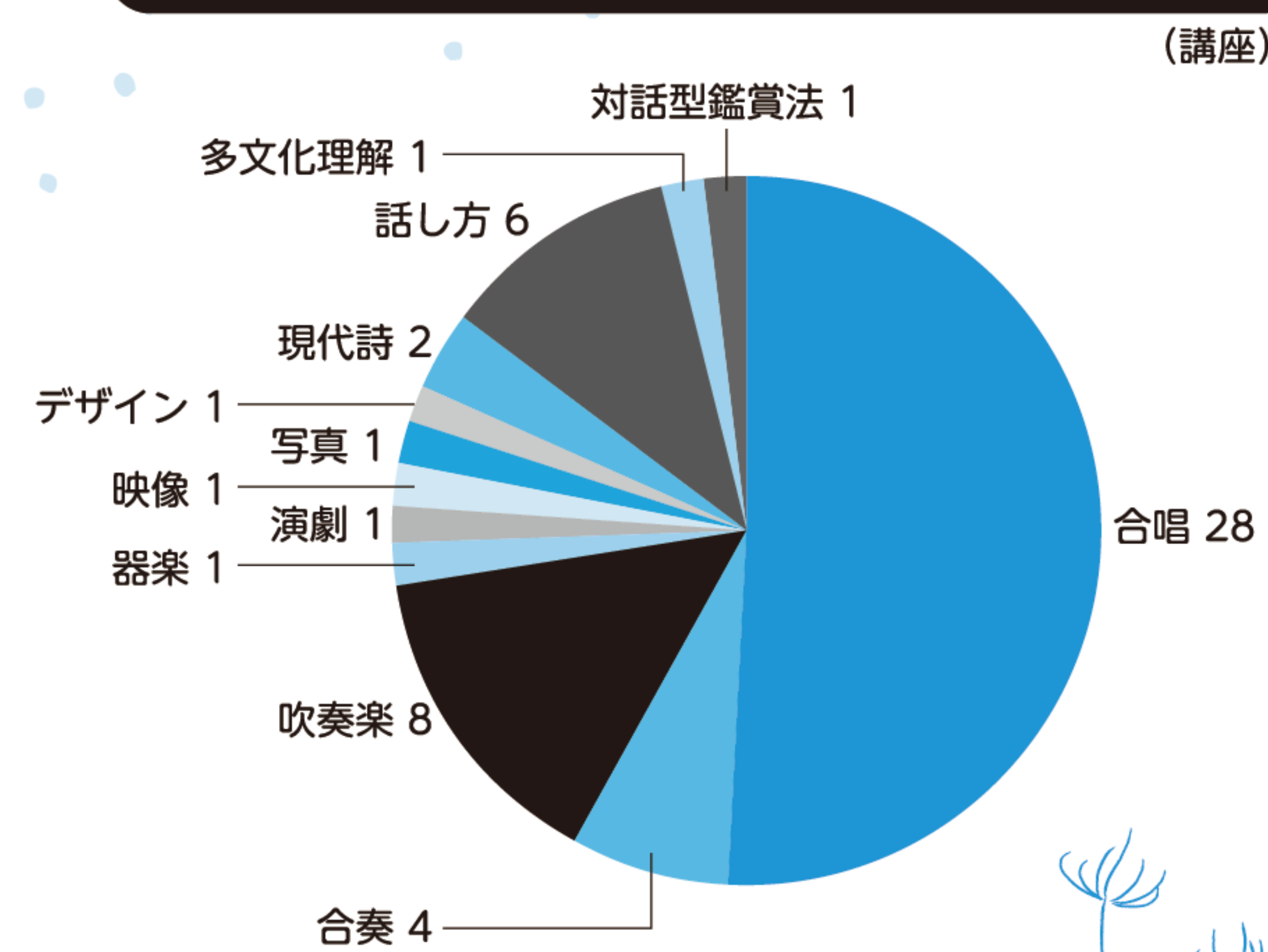
利用状況

※令和6年度の事業について、令和7年1月末の利用状況です。

R6 伝統文化系 全118講座



R6 一般文化芸術系 全55講座

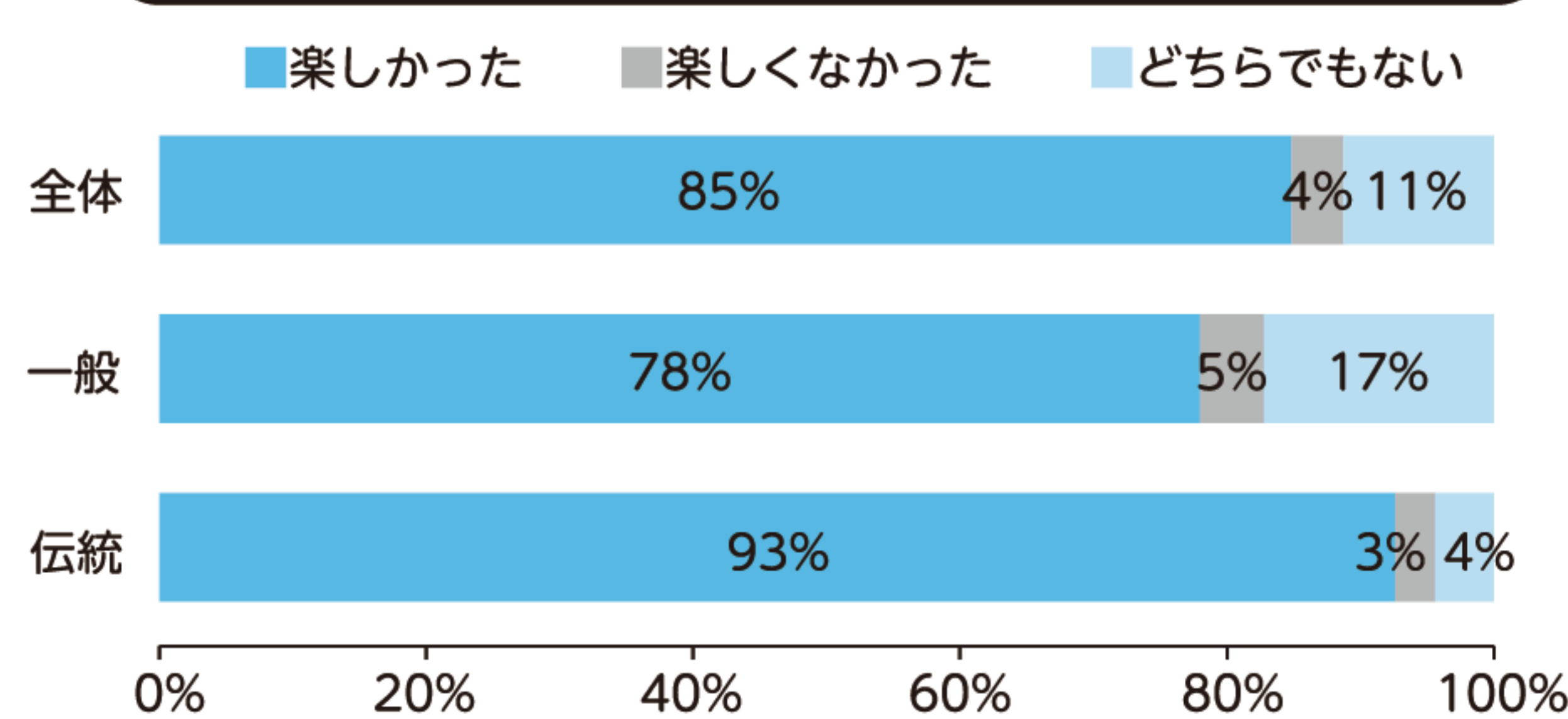


【アンケート結果】

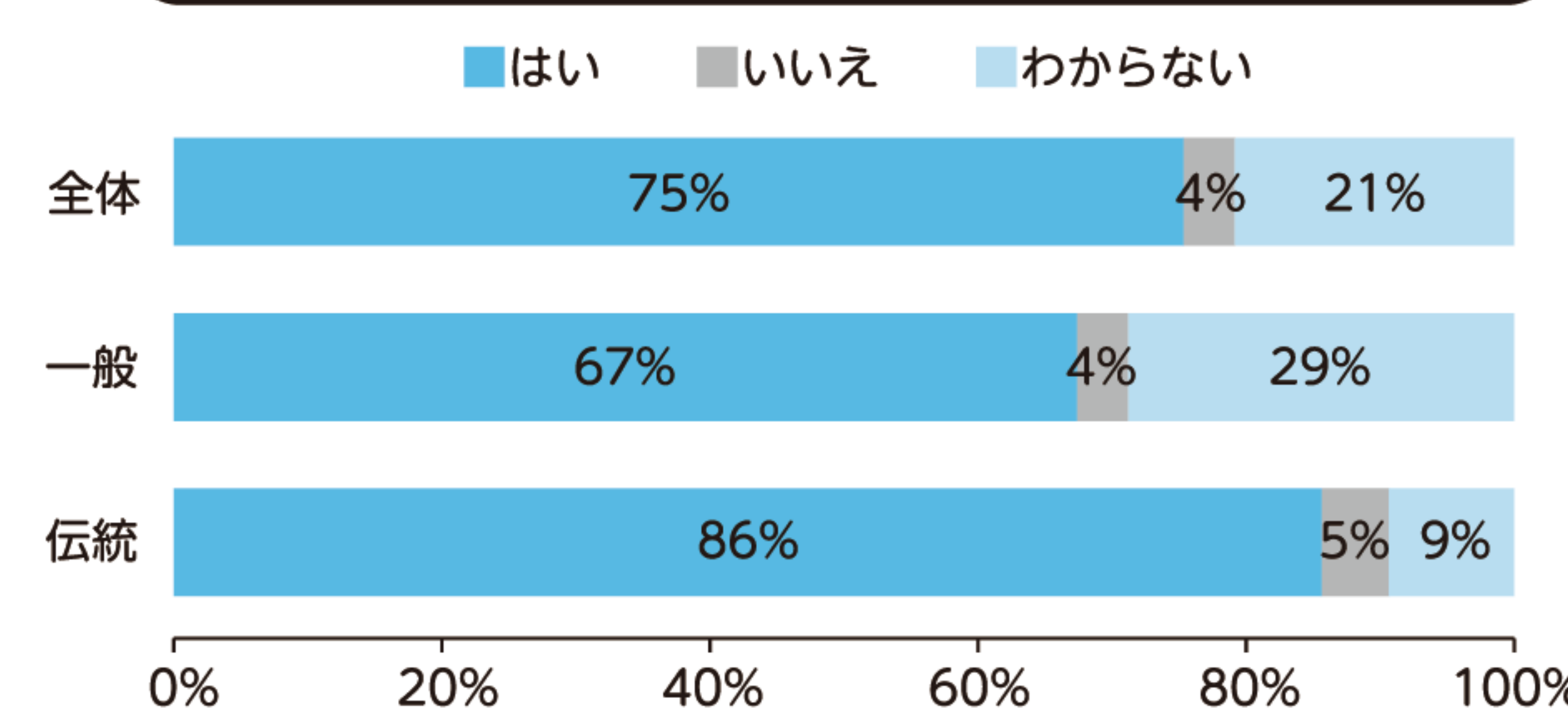
※令和元年度の事業についての集計結果です。

●児童・生徒向けアンケートから

講座は楽しかったですか？

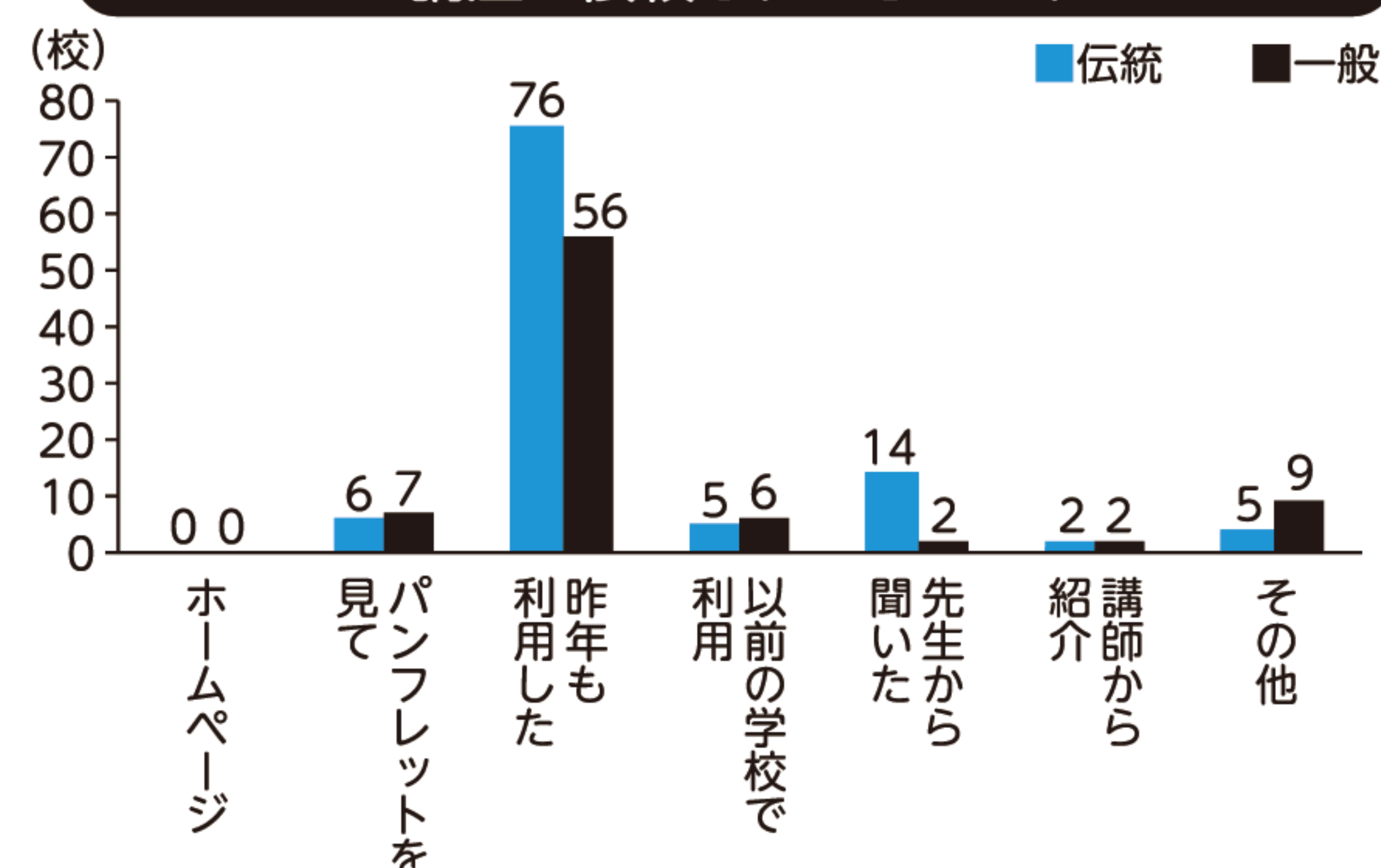


今回の講座をまたやってみたいと思いますか？

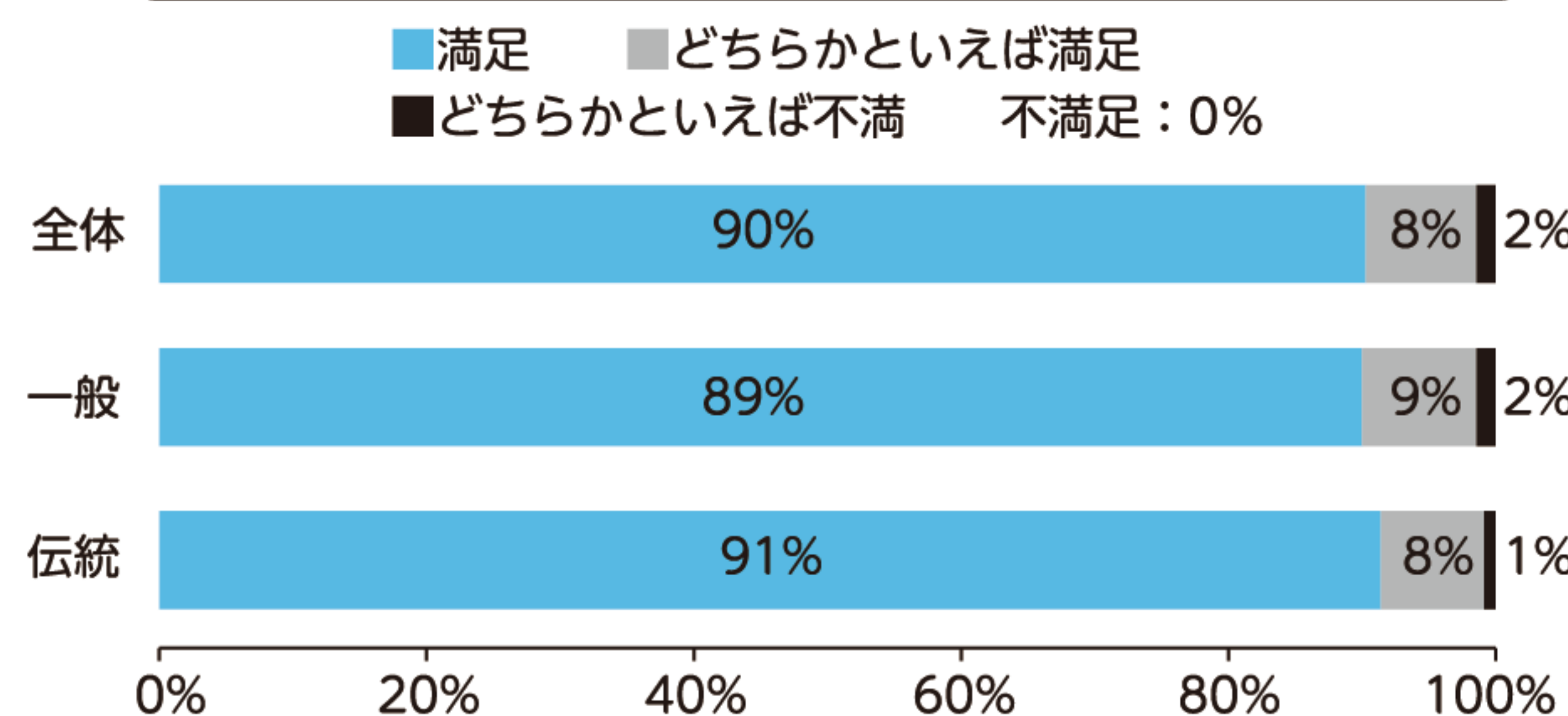


●教員向けアンケートから

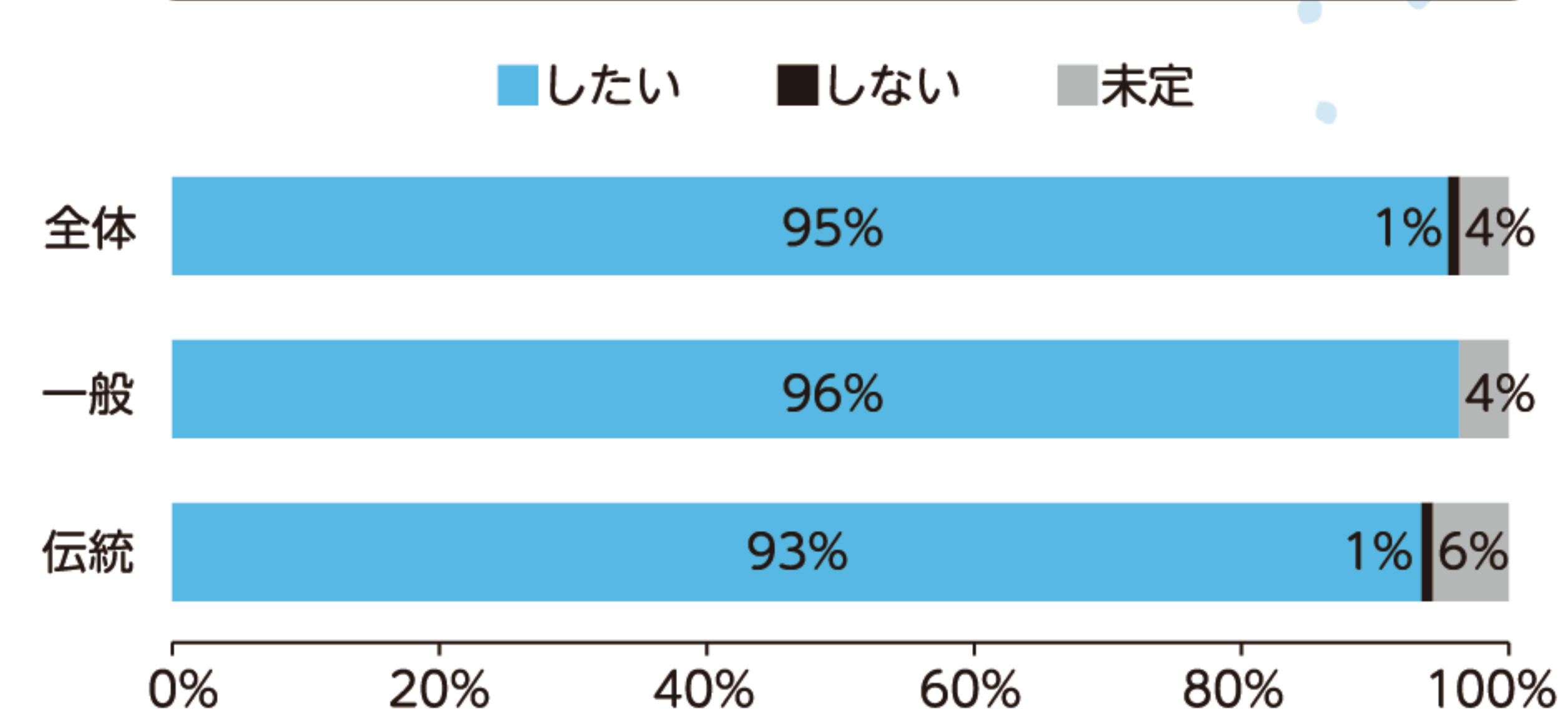
この講座を依頼されたきっかけは？



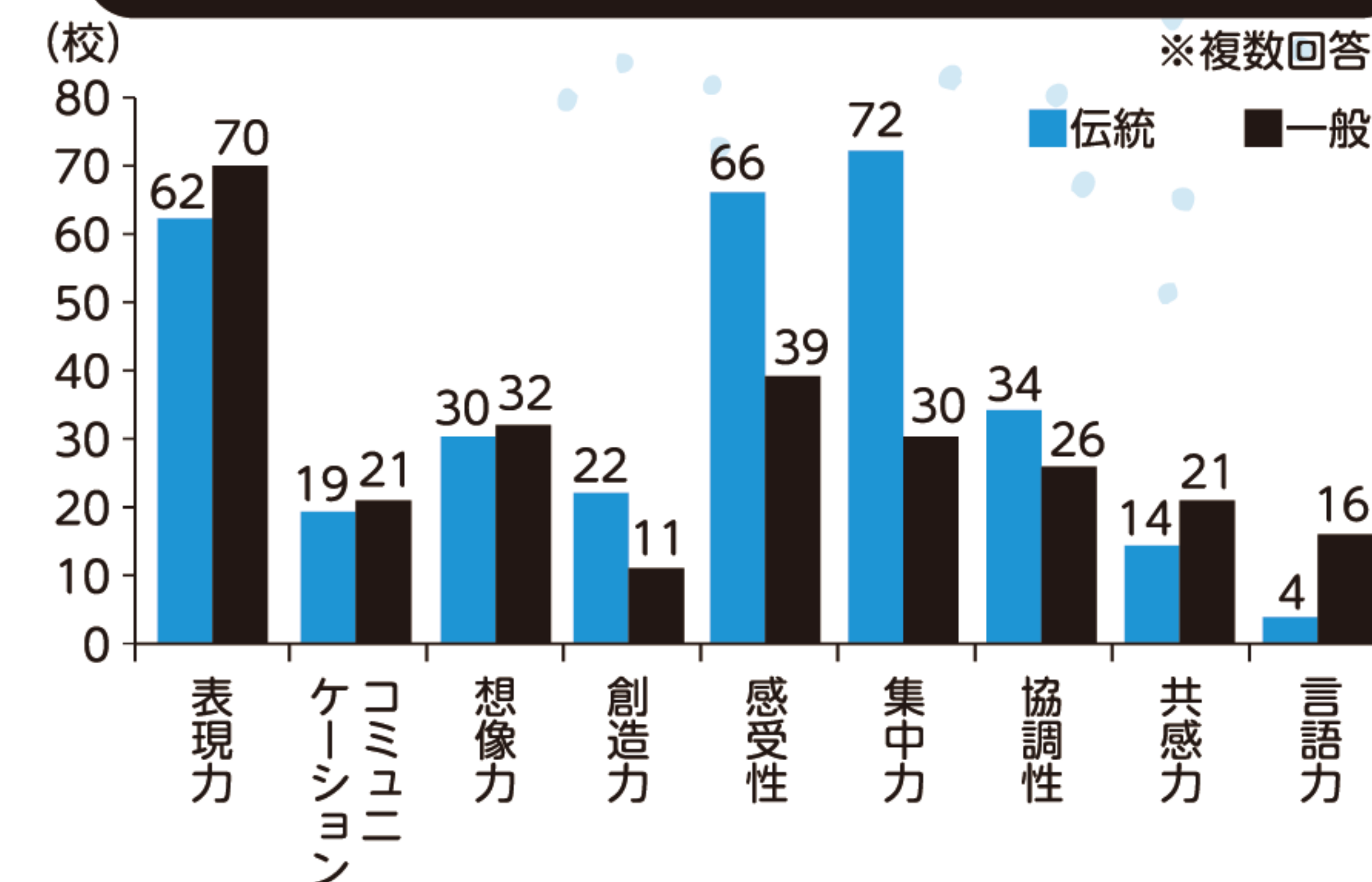
先生ご自身は講座の内容に



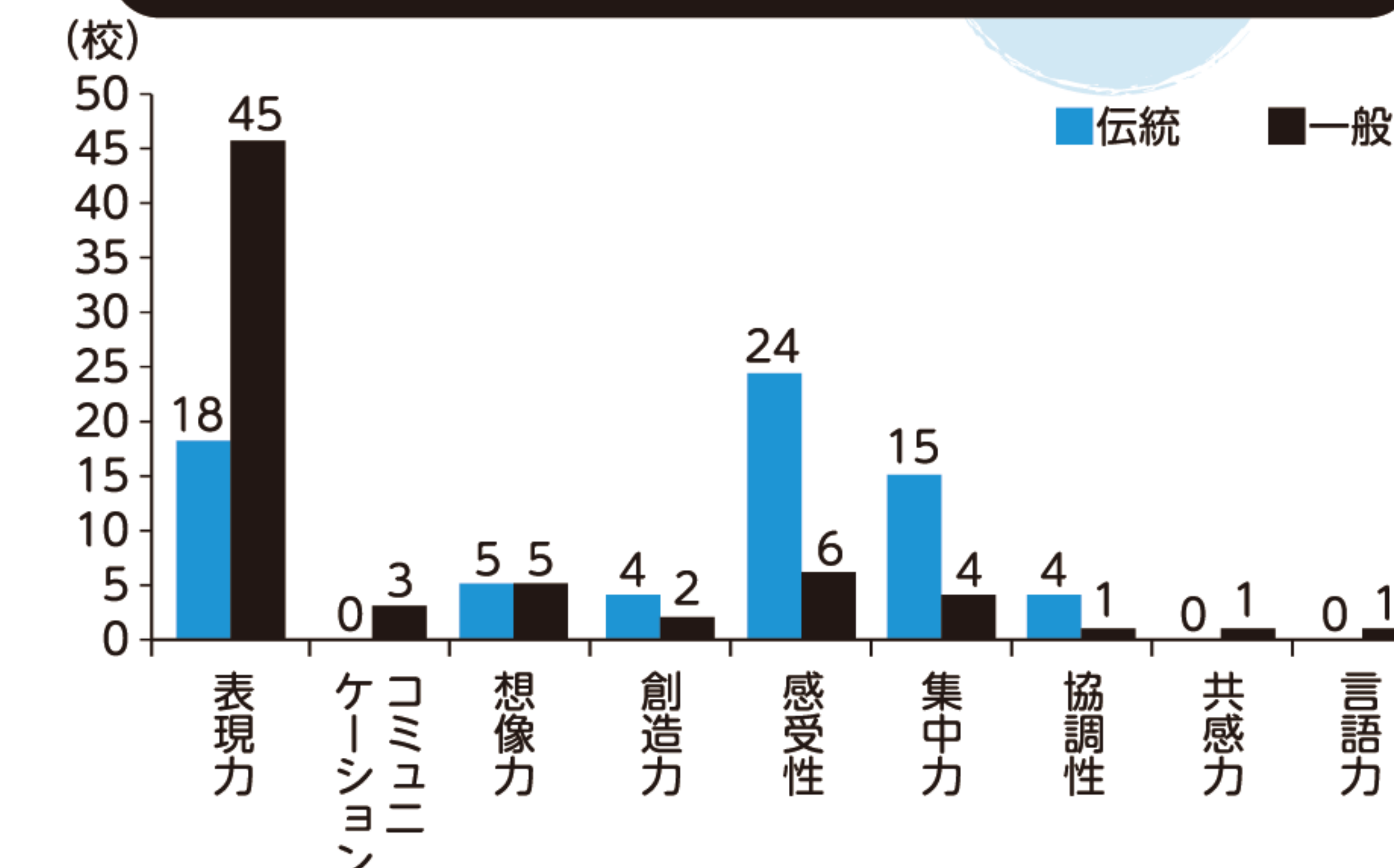
今後も「学校出前講座」を利用したいですか？



今回の取り組みにより、子どもたちにとって力がついたと思われる項目



最も力がついたと思われる項目



子どもたちの具体的な様子。先生方の自由回答から。

【表現力】

- ・箏・尺八の音色で表現された情景を思い浮かべたり、美しい音色を心地よく感じ、自分も音が出せるようになりたいと取り組んだりしていた。(箏曲・尺八)
- ・自分なりの思いをもって、どうすれば主役の花が引き立つか考えながら生けることができた。(華道)
- ・ステージ上での表現力(動作・発声・目線・場面設定など)に一人ひとりの思いをもって、できるようになった。(ミュージカル)

【コミュニケーション能力】

- ・コミュニケーションのスキルだけでなく、人と接する時の心がまえや表情など、生徒がこれから社会に出て役立つことが、たくさん身に付いた。(話し方)
- ・子どもたちは、自分が感じたことや考えたことを言葉にすることに苦戦しつつも、周りの大人たちが助言することにより納得いく言葉が生み出せていたように感じた。大人の参加者も最初は困惑して発言していなかったが、子どもたちがどんどん発言することに勇気づけられたのか次第に全員が発言しやすい空気になっていた。(対話型鑑賞法)

【想像力】

- ・先生の所作を見て、何をしている様子かを想像しながら見たり、そこに物があることを想像しながら実際に演技したりすることができた。(狂言)
- ・季節をイメージしながら一人ひとりが自分の個性を生かした俳句を作ることができた。(俳句)
- ・夢の中の出来事や、今、イメージされたものを描くことによって生徒たちは想像力を駆使して、絵がどんどん変化していった。(絵画)

【創造力】

- ・様々な色の美しい箔を組み合わせたり、細かく貼る作業や、漆を用いた絵の具で絵をていねいに工夫して描いたりすることで集中力、表現力、創造力が向上した。(漆芸)
- ・歌詞の意味を自分なりに考えるようになり、楽譜にある強弱についても考えるようになった。(合唱)

【感受性】

- ・一つひとつの作法に意味があることを理解したうえで、お茶をたてることができた。相手のことを思い、お茶をたてる心の素晴らしさを感じることができた。(茶道)
- ・「できるようになった」「リズムの取り方が分かった」な

どの感想が多くあり、児童の意欲が高まって音楽が好きになったと感じている児童も見受けられた。曲に対する思いも違ってきた。(合奏)

【集中力】

- ・静かな環境にどっぷりと浸り、集中して取り組んだ。(水墨画)

- ・普段実物を見ることのない浮世絵のあまりの美しさに心をしっかり動かして鑑賞できた。和紙を置く時は1mmもずれないように、また、パレンで摺る時は余分なインクがつかないように集中して作業に取り組んだ。(浮世絵)

- ・普段私語の多いクラスが、講座の間はとても静かだった。400字の作文を仕上げるという目標に向かって、生徒たちは真剣に書いていた。(作文)

【協調性】

- ・「みんなで曲をつくっていくということを大切に」と指導してもらい、子どもたちも、みんなでがんばったということに満足していた。(銭太鼓)

- ・指導の中で「自分勝手に歌わない」「周りの人の声を聞いて合わせる」ということを言われてから、子どもたちの歌い方と声が変わった。歌以外でも、とても大切だと思うので、ずっと生かしてほしい。(合唱)

【共感力】

- ・互いに聴き合い、見合いながら鼓を打ち、声をかけ合い演奏していた。(鼓)

- ・一人ひとりが作品に対する考えや感想を言葉にして表現することで、それぞれが共感する点に対してうなずいたりしながら鑑賞できていた。(対話型鑑賞法)

【言語力】

- ・言葉を意識することが身につけてきている。(合唱)
- ・アートを鑑賞して発見し、その根拠を言語化して他者に伝えるように発話し、またはよく聞き、多様なものの見方や感じ方に接して、いま一度作品に戻って鑑賞することによって、自身のものの見方感じ方、思考の仕方について気づくことができた。(対話型鑑賞法)



文化芸術の優れた指導者を学校に派遣。 子どもたちに「本物の文化・芸術体験」を!!

【学校出前講座の特色】

岡山県文化連盟のネットワークを生かした“優れた講師陣”

*令和7年1月現在登録数 191名

10年超の事業実績に裏打ちされた“納得のクオリティ”

*令和6年度利用実績 県内22市町村、延べ31分野173件（令和7年1月末現在）
経験豊富なコーディネーターが、各校のご希望に応じた講座開催をお手伝いします。

講師派遣に係る学校側の“費用負担なし”

講師謝礼、交通費については、県からの委託と（公財）福武教育文化振興財団からの助成に基づき、文化連盟が負担します。但し、講座に係る実費（材料代等）は受益者（学校側）負担です。

公益法人かつ県内唯一のネットワークを持つ当連盟ならではの“高い公益性と専門性”

公益法人として「次代を担う子どもたちを心豊かに育てる」というミッションを背負う我々だからこそ、パブリックで平等な学校教育という場において現場の先生方に寄り添い、文化・芸術に関する極めて専門性の高い部分について、授業の補完的役割を果たすことができるのです。

児童・生徒だけでなく、学校の先生、講師もそれぞれ“得をする”

実際に講座を受講する児童・生徒が貴重な体験をするのはもちろんですが、普段指導にあたる学校の先生方も専門家である講師のモデル授業と一緒に体験できますし、講師とT.T.授業を展開したり、先生方の研修にも活用したりするなど、今までとは異なるアプローチから子どもたちの文化力アップを図ることができます。また、専門家である講師も子どもたちとのふれあいによって刺激を受け、その後の文化芸術活動に生かすとともに、今の子どもたちの実情を知り、技術や伝統を次世代に伝えるためのヒントを得ているのです。

【応募資格】

岡山県内の公立小中学校等（原則として、保育園・幼稚園・高等学校、私立学校は対象になりません。）

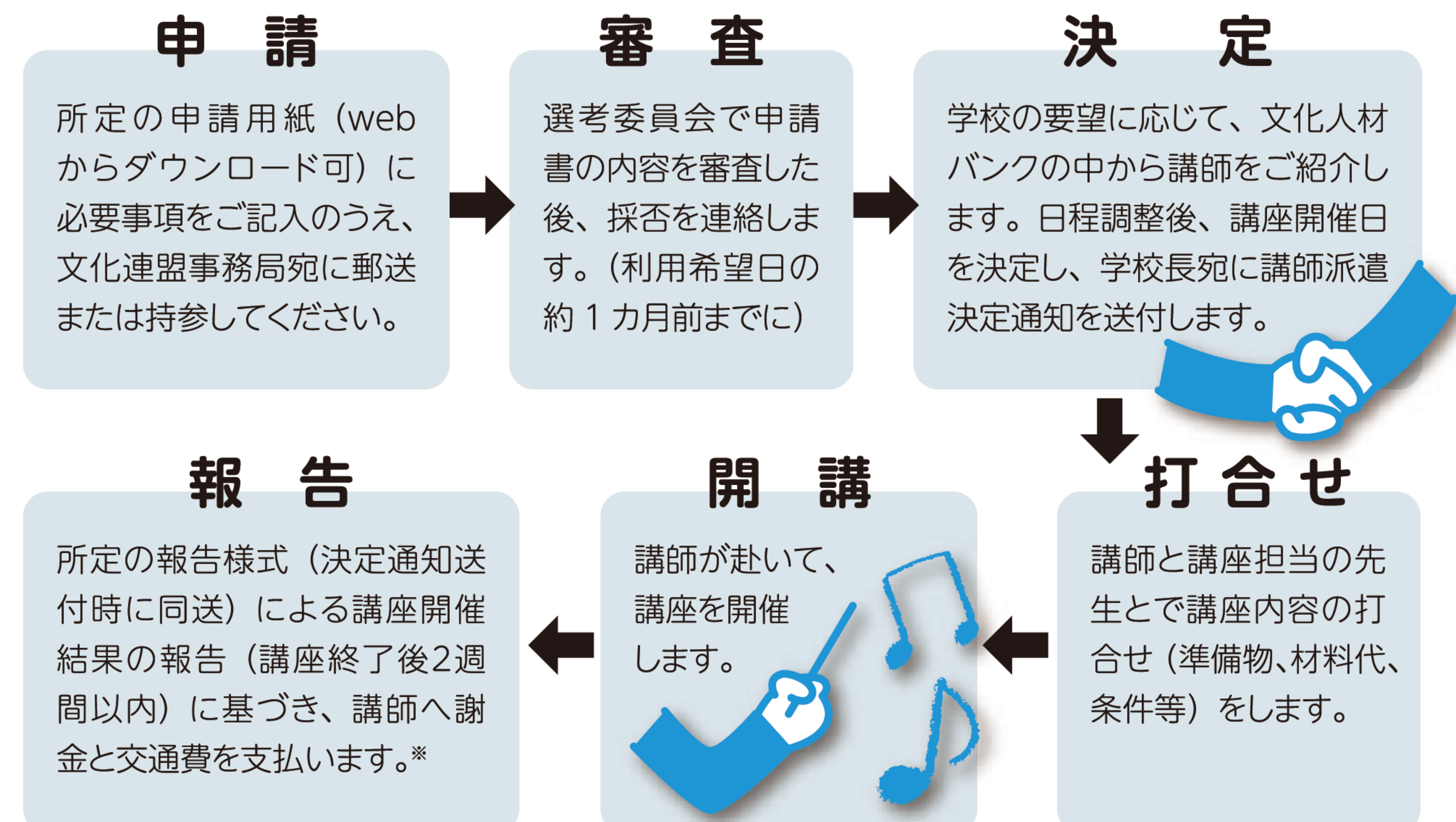
【対象期間】

令和7年6月1日(日)～令和8年2月28日(土)開催分まで
（報告書の提出は、講座終了後2週間以内です。）

【申請のルール】

- ①一校につき、1講座のみ申請できます。
*講座については【対象分野】をご参照ください。
- ②1講座当たりの利用時間は4時間（最大240分）、講師派遣回数は4回を上限とします。講座時間には事前の打合せや当日の準備、休憩、片付けの時間は含まれません。1時間は授業単位（小学校45分、中学校50分）を原則としますが、講座内容に応じて1時間を60分とする場合があります。但し、1回の講座時間が60分を超えるときは2時間相当とします。
例)小学校の場合、45分×4回(全4回)、60分×2回+90分×1回(全3回)、90分×2回(全2回)等は利用可能。90分×2回+60分×1回(全3回、合計240分)は不可。
- ③組合せ講座（例：箏曲・尺八講座）や選択授業（例：室町文化体験）については、まとめて1講座として申請してください。
- ④希望する講師について、派遣を確約するものではありません。
- ⑤大規模校・小規模校については、申請前にご相談ください。

【申請手続きと事業の流れ】



*今後、定期的にアンケート調査を予定していますので、ご協力をお願いします。

【対象分野】

分野	部門	講座
音楽	洋楽	合奏、吹奏楽、オーケストラ、洋楽器
	邦楽	箏曲、尺八、三味線、鼓、地唄、和太鼓
	民謡	民謡民舞
	合唱	合唱、ボイストレーニング、指揮法
演劇		演劇、ミュージカル
舞踊		日本舞踊、バレエ、現代舞踊（ダンス）、新舞踊
メディア芸術		映像、映画
伝統芸能		狂言
美術	絵画	デッサン、水彩画、油絵、日本画、水墨画、版画（リトグラフ）、抽象絵画、ガラス絵、テンペラ画、切り絵、浮世絵の摺り体験
	彫刻	彫刻（塑造・木彫）、各種素材による立体造形
	工芸	金工、木工、竹工、漆芸、染織、七宝、人形、陶芸
	書道	漢字、仮名、書写（毛筆・硬筆を含む）
	写真	風景、人物、昆虫
	デザイン	チラシ・ポスター、工業デザイン、空間デザイン、ブックデザイン
	作品鑑賞	対話型鑑賞法
芸術療法	臨床美術	
文芸		現代詩、俳句、短歌、川柳、童話、エッセイ、作文
生活文化	茶道	裏千家、表千家
	華道	池坊、小原流、御室流、専敬流、草月流、末生流、龍生派 囲碁、将棋、着付け、かるた、投扇興、現代作法、表装
話し方		アナウンス、朗読、言葉遣い
多文化理解		民族衣装、あそび、国際協力
建築		模型ワークショップ、建築探訪、空間デザイン

掲載されていない講座についても相談に応じます。

【活用例】

- 音楽発表会や学習発表会に向けた合唱指導、合奏指導など
- 総合的な学習の時間における伝統文化体験（和太鼓、木工、漆芸、染織、七宝、陶芸、かるたなど）
- 小学校6年生社会科における室町文化体験（茶道・華道・水墨画・狂言の選択授業など）
- 音楽の授業における邦楽体験（箏曲、尺八、三味線、鼓など）
- 美術（図工）の授業における絵画鑑賞の手引き（学芸員による講義）など
- 部活動におけるレベルアップ（箏曲、アナウンスなど）
- 職場体験に向けて（現代作法、話し方など）
- 地域の特性を活かした授業（地域出身の詩人を顕彰し、現代詩の創作を行うなど）
- 多文化理解教育（NGOの活動紹介や民族衣装・遊び・生活習慣を体験するなど）
- 学校教員を対象とした板書指導（書道）、合唱指導（指揮法含む）、美術指導など

【申請書提出先】

公益社団法人 岡山県文化連盟事務局まで、郵送または持参してください。
〒700-0814 岡山市北区天神町 8-54 岡山県天神山文化プラザ 3階

【実施事例】

七宝

講師：(公社) 日本工芸会中国支部
実施校：岡山市内小学校 6年生 59名 90分×1回
目標：日本の伝統工芸の一つである七宝焼の歴史を知り、作品を鑑賞したり、実際に制作したりすることで日本文化のよさに気付かせるとともに、大切にしようとする態度を育てる。
内容：・伝統工芸に対する理解と関心を促す。
・ワークショップで七宝焼の作品を制作する。

【児童の感想】

・七宝焼の由来や歴史を教えてください、興味を持ちました。先生の作った美しい作品を見て感心しました。七宝焼は、皿・ペンダント・アクセサリーなど身の回りの物の中にいろいろあることを初めて知りました。
・初めての体験でしたが、先生方に親切に作り方を教えてください、いい作品ができました。卒業前にお母さんにプレゼントしますが、喜んでくれると思います。

【教師の感想】

七宝焼体験は初めてでしたが、どの子も楽しんで活動できていました。銀箔を乗せる時は、迷っている子や戸惑っている子も多かったのですが、講師の先生やボランティアの方にアドバイスをいただいて集中して取り組めていました。特に焼き上がった自分の作品を見たときは、美しさに感動の声があがりました。活動後はどの子も満足した様子でした。今回、心を込めて作った七宝焼を卒業時におうちの方に感謝の気持ちを込めて渡します。その時の感動のお手伝いをしてくださり本当に感謝しています。

【講師の感想】

・最初に七宝とは何か、また、その歴史について説明し、その後実技に移りました。あらかじめ下焼きしてきた銅板（胎）に各自が思い思いにデザインして切り取った銀箔を張り付け、炉で焼成。取り出して冷やした胎に好きな色釉薬を塗って再度焼成。周囲をヤスリがけし、ストラップ用パーツをつけて、オンリーワンの出来上がりです。児童の柔軟なデザイン力と色彩感覚に、新鮮な驚きを覚えました。また、制作中も楽しそうで、目が生き生きしていたのが印象的でした。
・小学校高学年ということもあり、作品を作るということに何の心配もありませんでした。前もって作りたいデザインが決まっていたら、もう少し早く出来上がっていたかなと思うくらいで、出来上がった作品を見て、今度はもう少し大きいものに挑戦してみたいという意見もあり、とてもうれしく思いました。



現代詩

講師：岡山県詩人協会
実施校：赤磐市内小学校 6年生 25名 60分×2回
目標：郷土出身の詩人がふるさとの自然をたくさん詩に書いている。児童が詩の創作教室を受講することにより、詩の魅力や楽しさにふれ、詩や郷土の詩人についての理解を深める。

内容：[第1回]・講師の作品紹介
・詩の作り方を教えていただいた後、実際の詩を創作
[第2回] 子どもたちが創作した詩について、工夫できているところ、言葉のおもしろいところなど、いろいろなエピソードも交えながら楽しくご指導いただいた。

【児童の感想】

・私は詩を書くのが苦手でした。でも、講師の先生に教えてもらい、自分の詩をほめてもらって自信ができました。素直に書けばよいとか、自分だけの見方をしたらよいとかよく分かりました。前より詩を書くのが好きになりました。
・講師の先生が詩を書くコツをたくさん教えてくださいました。これからの詩が書けそうな気がします。みんなの詩を紹介しているときにいろいろおもしろい話をしてくださって楽しかったです。
・2日間詩の勉強をして、難しいと思っていた詩が楽しいものになってきました。また書いてみたいです。いい詩を書いて、この町に生まれたことに誇りをもちたいです。

【教師の感想】

最初子どもたちは「詩を書くことは難しい」と考えて、頭で一生懸命言葉を探し出そうとしている感じでした。でも、「自分だけの言葉を使って素直に書けばいいんだよ」「見たままを絵が思い浮かぶように書くといいよ」という講師の先生の言葉で、子どもたちも肩の力が抜け、自由に楽しみながら創作活動に取り組むことができました。何より、全員の子どもの作品のよいところをしっかりとほめてくださったことは、子どもたちの意欲と自信につながりました。講師の先生のご指導を参考にさせていただき、詩が大好きな子どもたちを育てていけたらと思います。

【講師の感想】

詩2編をA4用紙に印刷して、内容、韻などについて話し、詩を書かせました。2回目の授業では、一作一作批評して、長所を中心に話をしました。一部宿題にしましたが、宿題で作った詩の方が出来がよかったです。理由はいろいろ考えましたが、子どもの作詩は、心の状況（やる気・意欲・心理状況）により、そのときどきで出来が違うのは当然のことだと思います。また、学校の先生方の熱心さも作用するのではないのでしょうか。